



どうする!?

中国 → 日本の送金方法

新年の帰国に備えて、日本円の準備をしよう! 現地での両替や銀行送金以外の便利な方法を2つ紹介します。

ATM 日本のATMで現金引き出し

銀聯カードが日本のATMで使える条件

- 磁気ストライプが付いた銀聯カードを持っている
- 銀聯カードの「境外取引(海外取引)」機能がオンになっている

磁気ストライプが付いているかチェック



ATMで引き出せる金額は?

国家外匯管理局の規定 毎日1万元以下、1年で10万元以下

各銀行の設定(キャッシュカードの信用額など)

日本のATMの引き出し上限金額

1回の引き出し上限金額

日本ATMの銀聯カード引き出し上限金額

銀行	ICカード+磁気ストライプ	磁気ストライプのみ	手数料
セブン銀行ATM	10万円/回	3万円/回	110円/件
三井住友銀行ATM	10万円/回	3万円/回	75円/件
イオン銀行ATM	5万円/回	5万円/回	75円/件
ゆうちょ銀行ATM	5万円/回	5万円/回	220円/件

各銀行の引き出し手数料

銀行	手数料
建設銀行	12円+引き出し金額の1%、最高112円まで
中国工商銀行	12円+引き出し金額の1%、最低14元、最高112円まで
中国銀行	12円+引き出し金額の1%、最高112円まで(クレジットカードの場合は最低15元徴収)
交通銀行	12円+引き出し金額の1%、最低14元、最高112円まで

銀聯カードの設定をチェック

中国の銀行に預けている人民元を、日本円にして日本で使いたい。そんな時便利なのが、銀聯カードを用いて日本のATMで日本円を引き出す方法だ。銀聯カードが日本のATMで使える条件は2つ。1つは、カードに磁気ストライプが付いていること。最近の中国銀行カードは、ICチップのみで磁気ストライプが付いていないタイプも見受けられるが、これは日本で買える物ではない。ATMでは読み込めない。カードの裏に黒い磁気ストライプが入っているか、必ず確認しよう。

2つ目は、銀聯カードの海外取引機能がオンになっていることだ。大抵の銀行カードは、発行時にオンになっているはずだが、たまにオフになっていることも。これが閉じられていると銀聯カードの海外利用ができないので、一度自分の銀行アプリから「境外取引(海外取引)」や「セキュリティ」の項目をチェックし、オンになっているか確認しよう。

引き出しの制限額に注意を

海外で現金を引き出せる金額については、中国の法律により1日1万元、1年で10万元までとなっている。これを超過してしまうと、当年どころか翌年まで海外での現金引き出しができなくなってしまうので注意が必要だ。

またATMで1回あたりに引き出せる金額については、各ATMや、中国銀行側の設定、カードの性質によって変わってくる。手数料は上記の表にまとめた通り。手数料は高くないもの、できれば1度にたくさん引き出して節約したいものだ。

P2P国際送金システムWiseで送金

Wiseとは?

- 銀行の国際送金とは違い、双方の国でお金を送りたい人と受け取りたい人をマッチングさせるP2Pシステム
- 銀行の国際送金より早く、手数料が抑えられることが多い

wise.com

人民元での送金に必要なもの

- パスポート
- 居住許可証、労働許可証、ビザ、外国人永久居留身分証から1~数点
- 雇用契約書、給与明細、銀行取引明細書、雇用主による申告書から1点
- 個人所得税の証明書
※提出書類により送金上限額などが異なる。

詳しくはコチラ▶



手数料

- 人民元でのチャージ: 一律88.37元
- 人民元→日本円での送金: 固定手数料9.92元 + 送金金額の0.68%
※送金金額によってはこれ以外に手数料がかかる場合あり

① 登録

ログイン後、人民元の口座を開設する。ネットでのログインや送金には都度ワンタイムパスワードが必要だが、スマホが迷惑メールを弾いていると、届かないことがある



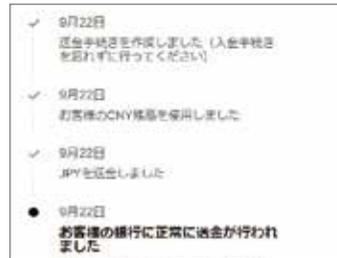
② 入金

中国元での入金は、必ず本人の銀行口座を使う必要あり。必要書類をアップロードし認証された後、指定の国内口座に入金すると1日で反映された

取引	すべてを確認する
↑ 送金済み - 9月22日	96,463 JPY 4,800 CNY
+ CNY残高への取引 9月22日	+4,800 CNY 4,858.37 CNY

③ 送金

日本への送金は、本人もしくは別の個人への送金もできる。試しに自分の日本口座へ少額を送金してみたところ、手続きをしてから4時間ほどで入金確認された。驚きのスピードだ



早く簡単な国際送金システム

銀行を通じた海外送金は時間がかかるし、送る側にも受け取る側にも手数料がかかる。その代わりとして検討したいのがP2Pの民間送金システム。送金が早く簡単だとして、世界中で用いられている方法だ。今回はそのうちの「Wise」を使って日本へ送金してみた。

まずサイトへのログインだが、ブラウザから登録する場合、都度携帯電話番号に送られてくるパスワードを入力する必要がある。このパスワード、最初は届かず苦労したが、スマホの迷惑メール設定をオフにしたことで届くようになった。

次に人民元を用いた送金は、上記に示したような書類の登録が必要となる。ネットでアップロードしたところ、すぐ承認が下りた。早速自分の銀行アプリから入金。入金手数料は金額に関わらず一律88.37元なので、大きい金額をまとめて入金した方がお得がある。

送金は約4時間で完了

入金後、自分が指定した金額以外を振り込むと受け付けてくれないので気を付けよう。最後に人民元から日本円に換えて、日本の口座への送金にトライ。方法はとても簡単で、送金する人民元の手数を打ち込むと日本円での受け取り金額が表示されるので確認し、相手の口座情報を入力した後、送金を確定すれば完了。なんと、わずか4時間ほどで日本の口座へ入金された。ただ100万円を超える送金はSWIFTでの入金になり、手数料と時間がややかさむとのこと。また提出書類によっても送金上限が変わることだが、それでもネットですべて完結し、面倒な電話連絡などもないこのシステムはかなり魅力的だろう。